

財務・資本戦略

成長に向けた先行投資により、収益構造の転換を図ります。

ウブトラビのпатентクリフを乗り越え、持続的な成長を実現するため、第七次5ヵ年中期経営計画を先行投資フェーズと位置付けています。研究開発や導入品の獲得などへ積極的に投資し、中長期的な成長基盤の確立を目指します。

第七次中期経営計画の進捗と成果

2025年5月に公表した2025年度の業績予想(売上収益1,730億円、営業利益300億円)に対し、実績は売上収益1,707億円(達成率98.7%)、営業利益354億円(達成率118.3%)となりました。売上収益は概ね計画どおり、営業利益は想定を上回る水準で着地しており、収益性の確保という点では一定の成果を上げています。

2024年度に開始した第七次5ヵ年中期経営計画では、ウブトラビのпатентクリフを乗り越えて持続的な成長を実現するため、「ウブトラビに替わる成長ドライバーの育成」「グローバル展開の拡大」「継続的なパイプラインの拡充」の3つを重点テーマとして掲げています。2年目となる2025年度においても、これらのテーマを実現するための各施策が着実に進捗しています。

「ウブトラビに替わる成長ドライバーの育成」については、エルゾンスの新発売やウブトラビおよびオプスミットの小児用製剤を発売しました。さらに、ジャイパーカについて、慢性リンパ性白血病の適応拡大を取得し、将来の収益源確保に向けた基盤整備が進んでいます。

「グローバル展開の拡大」では、Capricor Therapeutics社と販売契約を締結しているCAP-1002について、第Ⅲ相試験で良好な結果を取得しました。これを踏まえ、米国子会社であるNS Pharmaにおいて上市準備を進めています。また、米国で自社販売を展開するビルテブソは、発売から6年目を迎え、医療関係者、患者団体、保険者との連携を一層強化することで、持続的な市場浸透と収益確保に取り組んでいます。

「継続的なパイプラインの拡充」においては、研究開発投資を積極的に継続し、2025年度の研究開発費は367億円と対前年度比+6.9%の増加となりました。これは主に、パイプラインの進捗に伴う委託研究費および治験薬製造費用の増加によるもので、将来価値の創出に向けた先行投資を着実に実行しています。MiNA Therapeutics社、ボストン小児病院、FRONTEO社、xFOREST Therapeutics社との提携を通じてオープン

常務取締役
経営企画担当

枝光 平憲

財務・資本戦略

イノベーションを推進し、次世代創薬に向けた基盤の強化を図っています。これらの取り組みは、将来の患者さんへの新たな価値提供と同時に、当社の成長を牽引する医薬品の創出につながる重要な投資であると考えています。

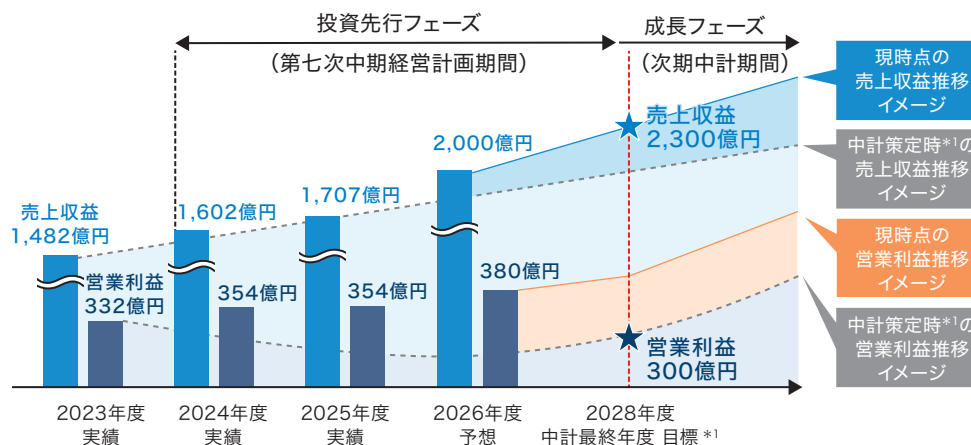
2026年度の見通しと成長シナリオ

2026年度は、売上収益2,000億円、営業利益380億円を見込んでいます。米国ではCAP-1002の上市に向けて準備を進めているほか、国内ではアーリーダ、フィンテプラ、ウプトラビなどの新製品群の売上伸長などにより、増収を見込んでいます。一方で、NS Pharmaの販売費用やパイプラインの進展に伴う委託研究費の増加などにより営業費用は増加するものの、増収により営業利益は増益を確保する見通しです。

中期経営計画策定時には、先行投資の拡大により2026年度を営業利益の底と想定していました。しかしながら、実際には増益を維持できる見通しとなっており、収益構造の転換と収益基盤の強化は想定を上回るペースで進展しています。

中期的には、2028年度の定量目標である売上収益2,300億円、営業利益300億円の達成確度は高まっています。また、2029年度以降を成長フェーズと位置付け、2030年度には売上収益3,000億

業績推移イメージ



*1 2024年05月27日開示 「第七次5カ年中期経営計画(2024年度-2028年度)~For Global Growth Beyond the Cliff~」

円、営業利益500億円規模への成長を目指します。

キャピタル・アロケーションの基本方針は、財務健全性を確保しつつ、第七次中期経営計画の3つの重点テーマを軸に、持続的成長につながる投資を優先的に実行することです。

2024年度から2025年度の2年間で、研究開発費に累計710億円を投資し、新製品の上市およびパイプラインの進展につなげました。設備投資については、研究開発施設や製造施設の整備に加え、営業・研究開発部門におけるデジタル投資を含め67億円を投じました。これにより、創薬力および開発効率の向上に加え、品質確保と安定供給・生産能力の強化を進め、中長期的な競争力向上と収益拡大につなげていきます。

また、研究開発部門では、AI創薬プラットフォームの構築に投資を行い、これを活用した研究段階の候補品の創出も進んでいます。機動的アロケーションにおいては、主にグローバル展開が期待される新規導入品の獲得を中心に337億円を投資し、将来の成長基盤の強化を図りました。

中期経営計画策定時には、キャッシュ原資を5年間の研究開発費控除前営業キャッシュ・フローおよび手元資金などを合わせた3,700億円と想定していました。しかしながら、これらの積極的な投資により新製品の立ち上がりが想定以上に進展していることなどから、営業キャッシュ・フローは増加する見込みです。増加したキャッシュについては、中長期的な成長に向けた成長投資やおよび株主還元

キャピタル・アロケーション

